



# 妙高

妙高市立妙高中学校  
学校だより 第25号  
平成26年7月15日

携帯電話用QRコード



## 「ネットトラブル」注意報！

校長 鈴木 恒夫

### ◆「根拠のないうわさ話をしないこと！」

先月、緊急に全校生徒に指導した内容です。あらぬうわさが広まったため、無関係の生徒がトラブルに巻き込まれる可能性があったからです。

「うわさ」は、明確な根拠がなく「ねえ聞いて聞いて！」とか「ここだけの話だけど・・・」と広がっていくものです。罪のない内容が少人数の間でとどまっているうちはともかく、より広範囲に広がり、大きな影響力をもつようになりますと問題は大きくなります。『うわさの量＝重要度×あいまいさ』

…『うわさの公式』といいます。

重要度が高く、不確かな情報ほどうわさとして広まるということです。どちらかが0だとうわさにはなりません。例えば「鈴木校長は妙中コロッケが大好きである。」という情報は、生徒にとってどうでもよいこと（重要度0）なので、誰かが話したとしても「ふーんそうなの」で終わり、それ以上広まりません。命や生活に関わるほど重要で「えっ嘘？本当？」という場合が最も広がりやすいのです。災害時に多くのうわさやデマが飛び交うのはこのためです。

「人のうわさも75日」という諺があります。うわさ話が個人の口コミで伝わっているうちは、どんなうわさでもいずれは忘れられてしまいます。でもインターネットが普及している今はそうはいきません。内緒のつもりで書き込んだことも、口コミの数万倍のスピードで広まっています。一旦発信された情報は削除することは困難で、とても75日ではなくなりません。ネット社会の怖い一面であるといえます。

### ◆「メディアに関するアンケート」(妙高市教委が実施。)

詳細は「教育委員会だより」を参照してください。

グラフは結果の一部です。携帯電話やスマホよりもゲーム機等の所持率が数倍上回っています。これらの機器はインターネットに接続可能なので、容易に世界中と交信できます。「ケータイを持たせなければ安心！」という時代は終わっているようです。

アンケート結果から、市内の中学生の多くが各種メディアを使ってメールやラインで交信していることがわかります。また3割近くの生徒が「知らない人と連絡を取ったことがある。」と回答し、約4割が「つい遅くまで使ってしまった。」「いやな書き込みをされた。」などのトラブルを経験しています。各種メディアは、もともと悪意をもって開発されたものではありません。正しく使うことでとても便利で楽しい道具になります。しかし使う側の意識や自分をコントロールする力が不十分な状態で自由に使わせることは、極めて危険です。大きなトラブルに発展し、手遅れになる前の「未然防止」が大切です。

「100%保護者の責任！」…各種メディアは、買い与えた保護者が使用状況を把握し管理する責任があります。学校でも「情報モラル」について指導しますが、ご家庭でも「プライバシーだから」とか「よく分からないから」などと遠慮せず、確実な指導・管理をお願いいたします。(3ページに関連情報を掲載しました。また、7月15日に「ネット講演会」を開催します。保護者の皆様、ネット社会の「光と影」について一緒に学びませんか。是非ご参加ください。)



合同大会の一場面(本文の内容とは関係ありません)

メディアの所持率

